

浜嶋です。

母親世代タスクチーム概要報告（2／4）

第2弾です。

団会議及び団委員会で議論したいと思います。

ぜひ、全員で一通り読んでください。

いいヒントを見つけてください。

皆様のご意見もいただければと思います。意見を送ってください。

トークセッションのまとめ

5. 継続している理由

- ・”ボーイスカウトとは何か”を抜きにして、楽しいから子どもは次も行きたい
- ・体験プログラムの内容による。作る、食べる→楽しい→入団
- ・忍者体験と手打ちうどん、楽しい+食べられる=子どもはハートをつかまれた
- ・一年間のプログラムが配られる。保護者も、それを見ただけで楽しそうと感じる
- ・隊が同じであれば兄弟で同じことができる。それは、ほかの習い事ではないこと。とても良いと思った
- ・団行事は、制服の違いなどを見て上進に向けての憧れが生まれる。そういう場があると良い
- ・多くの指導者に育てられている環境がよいな、と思っている
- ・家を出るまでは大変だが、行ってしまえば（ストレスなく）楽しい時間が過ごせている

6. 入隊を考えるきっかけから入隊まで

- ・東日本大震災のとき、日頃からキャンプをしている家庭のお母さんが「こういう時に技能が役立つ」と言っていた
- ・インドア派のお子さんを持つ親御さんから、ボーイスカウトは楽しく行っていると聞いた
- ・アウトドアをさせたいが、ご主人がアウトドア派ではないため
- ・近所のお兄さんがボーイスカウトをしていて、話を聞いた
- ・スカウトだったご主人や、ご主人のご兄弟を見ていた。仲間意識や縦社会が身についている
- ・ロープ結びの技術が実用的で助かっている
- ・PRパンフレット（日本連盟製作）をもらった
- ・小学校では言うしていたボーイスカウトのイベントのチラシをもらった
- ・ご兄弟の当時の習い事について尋ねたところ、ボーイスカウトも候補に挙がっていたと

聞いて調べた

7. 入隊して ～スカウト自身のこと・親御さんの思い出など

・「ボーイスカウトに入れたら〇〇君みたいに活発な子になるのでしょうか？」と、学校のお友だちの親御さんから声をかけられるが、

ほかのスカウトはおとなしいので、その子の資質によると思う。なんと行ってボーイスカウトを紹介して良いかわからない

・子ども自身が学校の連絡網を聞き取り「復唱します」と対応したことで、ほかの親御さんから「こういうことが言えたのは一人だけだ」

と言われた。「ボーイスカウトだからだ」と言えた

・自分で考えて行動できるようになった。ボーイスカウトの活動と、ほかの習い事のバランスも、自分で見てスケジュールを立てられるようになった。

ほかのスカウトの親御さんも同じように言っている。

・隊長がなんでも受け止めてくれたので、スカウト自身「すべて自分を受け入れてもらえる」と感じたのではないかと思う

・ボーイスカウト活動とサッカーの両立をしていたが、指導者がサッカーも応援してくれたり、居心地がとても良かった。結局、サッカーを辞めて、ボーイスカウトに絞った

・活発な子だが、隊長が大きく受け止めてくれているので、のびのびと活動している

・オリンピックのお手伝いができるまで頑張ると言っている

・兄弟の活動を見て、下の子も入隊を決めている

8.” 雰囲気の良い指導者”” 魅力的な指導者”とは、どのような指導者？

・「命に係わること以外なら何でもOK」と大きく受け止めてもらえた

・大勢の子どもがいるのに、一人ひとりを見ていてくれる。見守ってくれているのを感じた

・中途半端な時期に入った子どもを、隊長が置いてけぼりにしなかった。入隊前の話になると「あの時はまだ入っていないから知らないよね。こんな行事があるんだよ」。それを見て保護者として気持ちを驚掴みにされた

・見て見ないふり、自分で気づけというスタイルの指導者もいるが、言われないと分からない年頃の場合は、立ち止まってしまったスカウトに、見守るだけではなく、また回答を与えるのではなく、ヒントを与え導きをしてくれる指導者が魅力的

・厳しくもしてくれる。叱ってもらえる

※良いことは取り入れる。地道な自己向上が大事ですよ。

後2回、次もお楽しみに！！